

令和4年度

由利本荘市地域公共交通活性化再生協議会「分科会」

とき 令和5年1月26日（木）午前10時～
ところ 由利本荘市役所「正庁」

一 次 第 一

1 開 会

2 報 告 事 項

3 協 議

(1) 由利本荘市地域公共交通網形成計画（第二次）実施事業等の検証について

- ・【目標1】「“使える”公共交通へ」について
- ・【目標2】「“自分ごと”の公共交通へ」について
- ・【目標3】「“ライフスタイル提案型”の公共交通へ」について
- ・【目標4】「“守って育てる”山ろく線」について

(2) 地域公共交通確保維持改善事業に関する評価について

4 閉 会

由利本荘市地域公共交通活性化再生協議会

「分科会」出席者名簿

【委員】

※敬称略／備考欄の職氏名は代理出席者

区分	所属	職名	氏名（委員名）	備考
2号	東日本旅客鉄道株式会社秋田支社	総務部長	尾上 さやか	副課長 渡邊 剛
	由利高原鉄道株式会社	代表取締役社長	萱場 道夫	運輸課長 真坂 美幸
	羽後交通株式会社	取締役社長	齋藤 善一	本荘営業所長 齋藤 博幸
	一般社団法人秋田県ハイヤー協会	本荘由利支部長	小石 和弥	
	国土交通省東北運輸局	秋田運輸支局長	玉田 紀之	首席運輸企画専門官 小林 弘典
	秋田県観光文化スポーツ部	交通政策課長	小松 鋼紀	主幹兼班長 篠村 進
	一般社団法人由利本荘医師会	会長	松田 武文	【欠席】
	由利本荘市PTA連合会	会長	伊藤 慎	【欠席】
	由利本荘市身体障害者協会	会長	三浦 良明	
	由利本荘市婦人団体連絡協議会	会長	土田 典子	【欠席】
	由利本荘市老人クラブ連合会	会長	前川 伸	
	公益社団法人由利本荘青年会議所	理事長	泉谷 趹馬	
	鳥海山ろく線運営促進連絡協議会	会長	佐藤 久美	
	由利本荘市企画振興部	部長	今野 政幸	
3号	本荘地域公共交通利用者		大竹 悅子	
	矢島地域公共交通利用者		菅原 賢一	【欠席】
	岩城地域公共交通利用者		今野 正樹	
	由利地域公共交通利用者		多田 厚	
	大内地域公共交通利用者		菊地 洋	【欠席】
	東由利地域公共交通利用者		長谷山 博昭	東由利交通利用者会副会長 柴田 和尋
	西目地域公共交通利用者		加賀 秀喜	
鳥海地域公共交通利用者			高橋 莊一	
秋田大学		准教授	日野 智	◆分科会 委員長
秋田県立大学		准教授	星野 満博	◆分科会 副委員長

【事務局：地域振興課及び各総合支所】

所属	職名	氏名	
企画財政部 地域づくり推進課	課長	佐藤 弘幸	
	班長	田口 侑樹	
	主任	平澤 裕一郎	
矢島総合支所 市民サービス課 振興班	主査	秋山 茜	
岩城総合支所 市民サービス課 振興班	主査	斎藤 正晴	
由利総合支所 市民サービス課 振興班	班長	伊藤 善裕	
大内総合支所 市民サービス課 振興班	主席主査	小助川 健志	
東由利総合支所 市民サービス課	参事兼課長補佐	小松 和美	
西目総合支所 市民サービス課 振興班	主査	大友 春奈	
鳥海総合支所 市民サービス課 振興班	参事兼課長補佐県班長	佐藤 錠司	

【協議案件】 『由利本荘市地域公共交通網形成計画（第二次）』掲載事業一覧

1/5

事業No	事業名	事業主体	事業概要	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
事業1-1	地域間幹線である路線バス・鉄道を維持する	由利本荘市／バス事業者／鉄道事業者	本市の中心市街地である本荘地域と各地域を結ぶ路線バス、鉄道の運行を維持するため、交通事業者に交付している運行費補助等を継続する。	補助金交付	同左	同左	同左	同左
			近年、様々な形で進歩を続けるキャッシュレス決済やロケーションシステムの導入を検証・検討し、利便性の向上に努めるとともに、バスパックなどの企画や貨客混載の実施による生産性向上の取り組みを継続し、収支改善を図る。	循環バスによりバスロケ実証実験の実施 バスパック継続	キャッシュレス検討 バスパック継続	キャッシュレス拡大を検討	同左	同左
			<事業スケジュール>⇒	<実施>				

<事業の実施状況>

令和3年度：交通事業者に対する運行費補助等を維持した／羽後交通企画「バスパック」は継続した／羽後交通本荘営業所窓口においてR3.9.1からPayPayでの支払いが可能になった

令和4年度：交通事業者に対する運行費補助等を維持した【資料1-1①】／羽後交通企画「バスパック（天然温泉日帰り乗車券「東由利 黄桜温泉 湯楽里」）」を継続／羽後交通各路線及び循環バス・コミュニティバス「子吉線」においてR4.10.1からPayPayでの運賃支払いが可能になった【資料1-1②】

事業1-2	地域内幹線であるコミュニティバスの運行と維持	由利本荘市	・ 主に路線バスの代替交通として地域内の幹線を運行している市コミュニティバスの運行を継続する。	運行継続	運行継続 運行継続基準策定 スクールバスとの連携などについて検討開始	運行継続 運行継続基準策定 スクールバスとの連携などについて検討開始	新契約締結	新契約運行継続
			・ 路線バスと接続する乗り継ぎ拠点を核としたフィーダー交通を維持することで、地域内の交通ネットワークの充実を図る。	同上	同上	同上	同上	同上
			地域内にまとまったニーズがあると認められる場合は、基準を設けた実証運行を行い、持続可能性に十分配慮したうえでフィーダー交通を導入する。	P19にある空白地域において対応（事業2-3により）	必要に応じて同左にて対応していく	同左	同左	同左
			<事業スケジュール>⇒	<地域要望等に応じ随時検討>				

<事業の実施状況>

令和3年度：コミュニティバスの運行を維持した／運行継続基準を検討し、スクールバスとの連携の可能性を検討する／石沢地域交通を導入しカバー率が向上した

令和4年度：コミュニティバスの運行を維持した【資料1-2】／運行継続基準を検討し、適切な運行便数を検証した。また、市コミュニティバス事業の新契約の締結を進めた

事業1-3	各種交通モード間の接続強化	鉄道事業者／バス事業者／由利本荘市	・ 既存の各種交通モード間の接続の利便性を向上させることで、利用者がスムーズに公共交通機関を利用できる環境を整える。	R3.4ダイヤ改正にむけ調査・検討を行う	ダイヤ改正の実施	コミバス新契約においても接続に配慮する		
			・ 地域間幹線である鉄道や路線バスと地域内交通である市コミュニティバス等の乗り継ぎをスムーズにするよう改正を行う。	同上	同上	同上		
			ただし、乗り継ぎをして地域間を移動する以外にも、地域内の移動ニーズがあることも考えられるので、その点にも十分配慮して改正を行う。	同上	同上	同上		
			・ 【対象交通モード】 鉄道／路線バス／市コミバス					
			<事業スケジュール>⇒	<検討>	<実施>			

<事業の実施状況>

令和3年度：各交通モード間の接続を見直し、R3.4.1ダイヤ改正を行った

令和4年度：各交通モード間の接続を見直し、R4.4.1ダイヤ改正を行った

【協議案件】 『由利本莊市地域公共交通網形成計画（第二次）』掲載事業一覧

2/5

【協議案件】 『由利本莊市地域公共交通網形成計画（第二次）』掲載事業一覧

3 / 5

事業No	事業名	事業主体	事業概要	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
事業2-2	地域住民の「ちょい乗り」の推進	由利本荘市／地域住民	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通を利用する方が固定化されていることも利用者の減少に歯止めがかかる要因の一つである。 <p>そこで、普段は車を使用する方が、月に1度や2度と、積極的な気持ちで、あえて公共交通を利用することで地域の「生活の足」を維持していくことが可能になっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業2-1で実施する「対話会」や各地域で開催される町内会長等が集まる会合などに出向き説明とお願いを繰り返すことで“使わなければなくなってしまうんだな”という意識を持っていただけるようにしていく。 	事業2-1により実施	事業2-1により実施	事業2-1により実施	事業2-1により実施	事業2-1により実施
			<事業スケジュール>⇒					←<実施>

＜事業の実施状況＞

令和3年度：事業2-1にて推進した
令和4年度：事業2-1にて推進した

＜事業の実施状況＞

事業の実施状況

令和4年度：新規導入はなし／使用者が少ない「石脇新山乗合タクシー」では対話会を開催し、料金改定など利用しやすい環境整備に努めた
／利用がない「石沢地域交通」では県のアドバイザー事業を活用し、交通クリニックを開催【資料2-3、P9】

事業2-4	地域ごとのバスラッピングの導入	由利本荘市	各地域を運行する市コミュニティバスの車両に、地域特有のラッピングを施すことにより“自分たちのバス”である意識を醸成し、“守り育てる”ための「ちょい乗り」に繋げていく。	鳥海ワゴン2台		大内・鳥海ワゴンバス各1台		西目ワゴン1台
			・ラッピングは、各路線の車両状態と市の財政状況を考慮して更新される際に施すものとする。					
			<事業スケジュール>⇒	<車両更新時にラッピング実施>				

【協議案件】 『由利本莊市地域公共交通網形成計画（第二次）』掲載事業一覧

4 / 5

【協議案件】 『由利本莊市地域公共交通網形成計画（第二次）』掲載事業一覧

5 / 5

事業No	事業名	事業主体	事業概要	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
事業4-1	通学定期券購入費助成の検討	由利本荘市／ 由利高原鉄道（株）	平成26年度に166千人あった通学定期利用は、平成30年度には108千人にまで減少している。要因の一つとしてJRと比較して2倍以上となっている定期券代がある。					
			これを解決する手段として定期券購入費の補助制度が挙げられるが、路線バス定期券購入費とのバランスや、新たな財政負担が生じる可能性もあることからアンケート調査を行い、検討を開始する。	アンケートの実施・検証	定期代の半額程度の割引きを試験的に導入	本格導入の検討		
			<事業スケジュール>⇒	<アンケート・検討・判断>	→	→	<実施>	

＜事業の実施状況＞

令和3年度：補助という形ではなく定期代自体の半額程度割引きをしてアンケート結果に対する実証を開始した

令和4年度：由利高原鉄道により割引制度を継続し、好評を得ている【資料4-1】

事業4-2	各駅へのフィーダー交通導入の検討	由利本荘市／ 由利高原鉄道（株）	鳥海山ろく線は路線距離23kmに12駅が設置されている。しかし、 ・居住地によっては駅まで遠く利便性がよいとは言えない地域も多くある。					
			・これらの地域において、駅までの移動をしやすい環境を整えることで利用促進が図られる。					
			地域におけるニーズを把握し、フィーダー交通を整備すること ・で、地域住民の鳥海山ろく線の利用が促進されるのか、そのためにはどのような運行形態がマッチするのか検討していく。	地域の交通環境を考慮し、可能性のある地域に声掛け	同左	運行開始 随時募集する	同左	同左
			・検討にあたっては事業2-3「乗り[逢い]交通事業」の積極的活用も含める。					
			<事業スケジュール>⇒	〈調査・検討・協議〉		〈必要に応じて実施〉		

＜事業の実施状況＞

事業の実施状況

令和3年度・導入なし
令和4年度・導入なし

事業4-3	路線バスとの並走区間に関する整理検討	由利本荘市／ 由利高原鉄道（株）／ 羽後交通（株）	鳥海山ろく線並びに本荘伏見線は、利用する市民にとっては大切な「生活の足」であるものの、欠損額の補填が大きな財政負担になっている現状もある。					
			このことから、運行状況や乗車状況の現状を把握し、そこから、互いに協力し調整を図ることで利便性を損なわず財政負担も軽減できるような対策はないか検討を行う。		現状把握と3者協議の開始	同左	方向性の決定	
			検討にあたっては、通学定期券購入費助成や駅までの利便性を高めることで、本荘伏見線に与える影響も考慮しながら、目標4の3つの事業を一体的な対策となるよう検討を進める。					
			＜事業スケジュール＞⇒	＜調査・検討・協議＞	＜必要に応じて実施＞			

＜事業の実施状況＞

会和3年度：担当者会議を行い検討事項を洗い出す

令和3年度：担当者会議を行い検討事項を洗い出す
令和4年度：三者による協議を行い、今後に向けた検討を開始

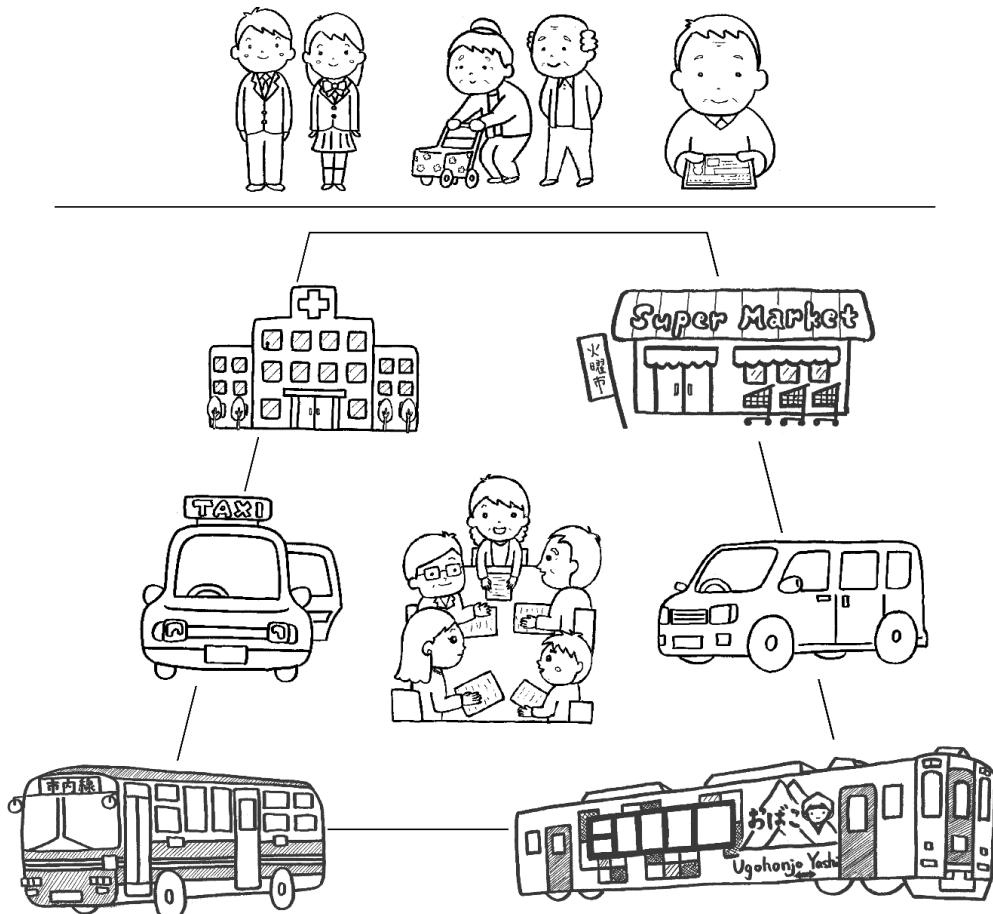
＜各目標における指標の達成状況＞

第5章 地域公共交通網形成計画の基本方針

- 市で定める上位計画における公共交通の望ましい姿や、市と公共交通の現状を鑑み挙げられている前章における課題を解決する。
- 現状の交通ネットワークを維持しながら、将来あるべき公共交通の姿を実現するための基本的な方針を定める。

計画の基本方針

持続可能な公共交通体系を構築し、
安心して「おでかけ」できる環境を創る



第7章 目標の評価と進行管理

I、目標の評価

- ・本計画で掲げた事業が的確に行われ、目指すべき公共交通の将来像に近づいているかを評価するため、それぞれの目標に指標を設けて取り組みの成果を測定し、評価していく。

【注】各目標の実績は全て12月時点での数値です

目標 I “使える”公共交通へ

指標1－1 地域間幹線の路線バスの平均運行本数と乗車人数

基準値：平成30年度	目標値：令和6年度
15本/日・15人/便	15本/日・15人/便
令和3年度実績：16本/日・6.7人/便	
令和4年度実績：14本/日・7.8人/便	

【モニタリング方法】

- ・羽後交通（株）が実施する乗降調査の実績をヒアリングし指標とする。

指標2－1 公共交通カバー率

基準値：平成30年度	目標値：令和6年度
74.6%	86.8%
令和3年度実績：77.3%	
令和4年度実績：77.3%	

【モニタリング方法】

- ・前計画においてモニタリングしてきた、交通空白地域において導入された公共交通機関のカバー率の調査を継続する。

＜評価・検証（案）＞

- ①地域間幹線の1便当たりの乗車人数が目標から大きく離れているので利用促進の必要性がある。
- ②新規路線や乗り[逢い]交通の新規導入がなく、カバー率に変更がなかつたため、路線の改編や乗り[逢い]交通事業の導入を進める必要がある。

＜今後の改善点など＞

- ③コミバスと路線バスの接続強化を継続し、「高齢者お出かけ促進事業」の普及に努め地域内・地域間セットでの利用促進を促す。
- ④乗り[逢い]交通事業の導入やコミバス路線の改編など、引き続きカバー率の向上に努める。

目標2 “自分ごと”の公共交通へ

指標2－1 「対話会」の開催回数

基準値：平成30年度	目標値：令和6年度
14回	年20回
令和3年度実績： 6回	
令和4年度実績： 6回	

【モニタリング方法】

- 市が町内会や各種会合等において、市民に対して公共交通の現状や、これから求められるものなどを説明し、意見交換を行うものを「対話会」とし、その開催回数を指標とする。

指標2－2 「乗り[逢い]交通」事業の導入件数

基準値：平成30年度	目標値：令和6年度
—	10件
令和3年度実績：1件（石沢）	
令和4年度実績：導入なし 計3件	

【モニタリング方法】

- 「乗り[逢い]交通」事業補助金の交付件数を指標とする。

指標2－3 地域別ラッピング導入の台数

基準値：平成30年度	目標値：令和6年度
—	5台
令和3年度実績：導入なし	
令和4年度実績： 2台（大内・鳥海）	

【モニタリング方法】

- 市コミュニティバスの車両更新に伴い、地域特有のラッピングを施した車両の導入件数を指標とする。

<評価・検証（案）>

①乗り[逢い]交通は実施事業を継続するため、各地域の実情を把握し、状況の改善に努めた。石沢地域については導入したものの、利用に繋がらないため、秋田県によるアドバイザー派遣事業を活用し、状況の分析を行った。

<今後の改善点など>

- ③「対話会」は広報誌での周知では申し込みが多く望めないことから、開催方法を検討したい。
- ④乗り[逢い]交通事業は、事業の継続と利用促進に努める。

目標3 “ライフスタイル提案型”の公共交通へ

指標3-1 スーパーや医療機関の連携件数

基準値：平成30年度	目標値：令和6年度
—	15件
令和3年度実績：2件（グランマート本荘南店、ニコット鳥海店）	
令和4年度実績：導入なし 計2件	

【モニタリング方法】

- 市コミュニティバスの沿線にあるスーパーや医療機関と連携し、互いの利用促進に資する特典制度を導入した件数を指標とする。

指標3-2 免許自主返納者の市コミュニティバス利用者数

基準値：平成30年度	目標値：令和6年度
2,014件	8,000件
令和3年度実績：1,806件	
令和4年度実績：2,302件	

【モニタリング方法】

- 市の割引制度である「市コミュニティバス半額利用者証」を使用してコミュニティバスに乗車した利用者数をカウントする。

＜評価・検証（案）＞

- ニコット鳥海店との連携により駐車場内にバス停を設けることができ、利用者も増えている。
- 幹線である路線バスの割引制度を導入することができた。また、羽後信用金庫と連携することができ、各地域の信金窓口で購入手続きをすることができるようになり大きく利便性向上を図ることができた。
コミバスの免許返納者利用については本荘地域では大きく伸びているものの、各地域では減少している。

＜今後の改善点など＞

- スーパー等との連携については、「お試し乗車」と絡め「公共交通での移動+目的地でのメリット」を訴求していきたい。
- コミバスの免許返納者利用は回復しており、路線バスの割引制度と連携するようなコミバスの割引制度を導入できないか検討していく。また、コミバスの地域内移動を充実し生活利用を促進する。

目標4 “守って育てる” 山ろく線

指標4－1 通学定期利用率

基準値：平成30年度	目標値：令和6年度
22%	40%
令和3年度実績：39.8%	
令和4年度実績：40.8%	

【モニタリング方法】

- ・鳥海山ろく線の沿線である鳥海、矢島、由利地域の高校生の人数に対して通学定期券を購入している人数の割合を指標とする。

※鳥海、矢島、由利地域の高校生

⇒鳥海中学校、矢島中学校、由利中学校の卒業生の人数より

※通学定期券を購入している人数

⇒通学定期券購入時の住所より鳥海、矢島、由利地域居住者を判別

<評価・検証（案）>

- ①通学定期代の半額程度を割り引くというかたちで大きく利用者を増やすことができたため、由利高原鉄道（株）で制度を継続した。それにより「定期収入」部分でも本年度は増額できる見込みとなっている。

<今後の改善点など>

- ②特に購入が多かった新一年生の利用を継続できるよう中学校に出向きPRすることで来年度入学生についても同様の利用水準を確保できるように務める。

2、目標の進行管理

（1）PDCA サイクルの実施

- ・本計画で掲げた目標を達成するために、的確に PDCA サイクルを実行していく。
- ・PDCA サイクルは、毎年開催する市地域公共交通活性化再生協議会において、各事業の実施状況および達成状況を報告し、有識者・事業者から広く意見・提案等を収集する。
- ・評価結果などは HP 等を通じて公表を行う。

■ P l a n

- ・目指す将来像に近づくための目標を設定し、具体的な事業を計画する。

■ D o

- ・体制・役割等を明確に設定し、実際に事業を取り行う。

■ C h e c k

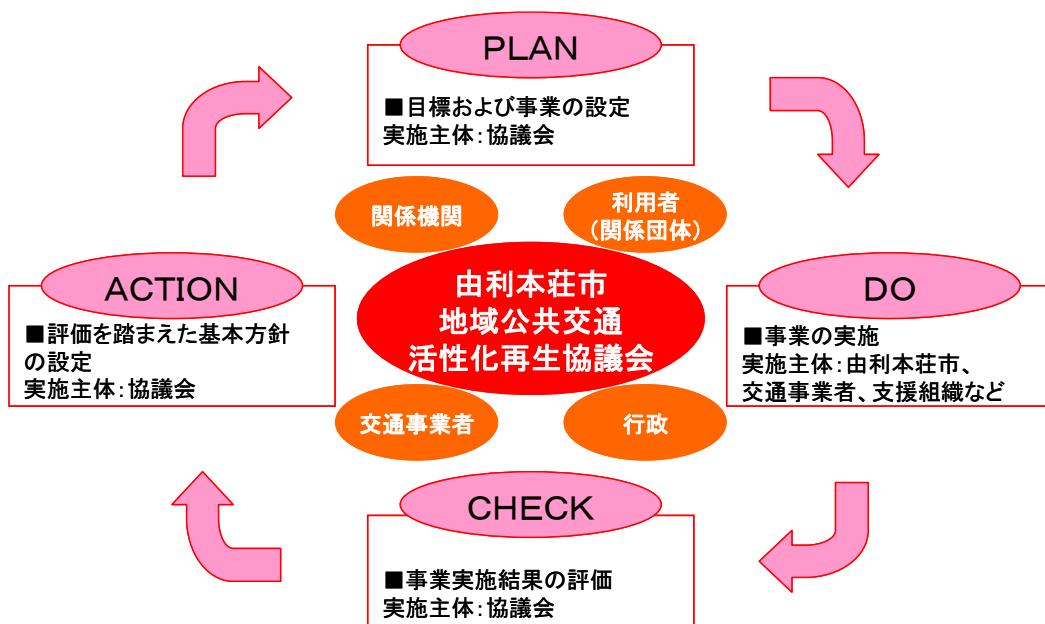
- ・途中で成果を測定・評価する。

■ A c t i o n

- ・必要に応じて修正を加える。一連のサイクルが終わったら、反省点を踏まえて再計画へのプロセスへ入り、新たなPDCAサイクルを進める。

（2）実施体制

- ・本計画の PDCA サイクルは、市地域公共交通活性化再生協議会を中心に、各取り組み事業の実施主体の協力を得て行う。



(PDCA サイクルの実施体制)

由利本莊市
地域公共交通網形成計画(第二次)

事業評価・検証 「資料編」

由利本莊市地域公共交通活性化再生協議会「分科会」

(路線バス)運行本数・利用者数調べ

資料 I - I ①

(R4.4.1改正 時刻表から)

路線名	平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			備考
	運行本数 (便数)	1日あたり 乗車人数	1便あたり 乗車人数													
急行秋田線	16	166.0	10.4	16	139.3	8.7	16	139.0	8.7	16	120.0	7.5	16	136.0	8.5	【国庫補助】 (広域・自主運行)本荘一秋田市
横手線	6	44.3	7.4	6	29.0	4.8	4	23.7	5.9	4	29.3	7.3	4	33.9	8.5	(広域)本荘一東由利一横手市 ※R3から市単独補助路線
東由利線	8	52.0	6.5	8	60.3	7.5	8	56.0	7.0	9	94.3	10.5	7	82.2	11.7	本荘一東由利 ※H28.10.1から一部路線廃止し「東由利線」に
象潟線	38	297.0	7.8	38	279.7	7.4	38	240.7	6.3	38	230.0	6.1	32	228.4	7.1	【国庫補助】【県補助】 (広域)本荘一西目一にかほ市
(新)市内線	13	117.7	9.1	13	100.7	7.7	13	82.0	6.3	13	77.0	5.9	11	70.3	6.4	自主運行 ※H30.4.1から「(新)市内線」として運行
中央線																自主運行 ※H30.4.1から「(新)市内線」として運行
福祉エリア線	8	13.0	1.6	8	12.0	1.5	8	9.7	1.2	8	13.0	1.6	8	17.9	2.2	
県立大学線	10	20.7	2.1	10	36.7	3.7	10	12.0	1.2	10	26.7	2.7	10	34.2	3.4	自主運行
松ヶ崎線	10	48.0	4.8	10	35.0	3.5	10	24.3	2.4	10	32.0	3.2	10	25.0	2.5	
岩谷線	14	54.3	3.9	14	50.3	3.6	14	43.0	3.1	14	43.0	3.1	12	45.0	3.8	本荘一大内(岩谷)
赤田線	12	78.3	6.5	12	77.3	6.4	12	68.3	5.7	12	77.3	6.4	10	77.1	7.7	
本荘伏見線	14	112.3	8.0	14	98.0	7.0	14	101.0	7.2	14	83.3	6.0	12	83.9	7.0	本荘一由利一矢島一鳥海
地域間幹線 平均値	16	121	7.3	16	109	6.5	16	101	6.4	16	100	6.7	14	102	7.8	

※1 運行本数(便数)はR4.4.1改正のバス時刻表から抽出。横手線は6便の内4便が本荘営業所扱い、2便が横手営業所扱いとなっている。

※2 利用者数は令和4年4月、7月、10月の平日各3日間のサンプル調査の平均値を使用

※3 各項目の表記について

・備考欄の「(広域)」…他市町村へ行き来する路線

・備考欄の「【国庫補助】」…国庫補助対象路線

・備考欄の「【県補助】」…県補助対象路線

・備考欄の「自主運行」…国・県・市からの補助がない路線 ※未表示の路線は『市単独補助』路線

前年度比

▲

前年度比

▲

便数が減った路線

乗車人数が増えた路線

<利用促進・生産性向上のためのキャッシュレス決済の導入>

資料1-1②

<取り組み状況>

R4.10.1より羽後交通各路線、本荘地域循環バス、
コミュニティバス「子吉線」でもPayPayで運賃支
払い可能となった

<実績>

循環バスで月平均12件程度の利用があり、子吉線
では実績がない

羽後交通

サイトマップ サイト内を検索 検索 お問い合わせ

HOME 路線バス 高速バス 貸切バス 予約制バス

新着情報

- お知らせ
- 予約制バス
- 路線バス
- 高速バス

トップページ > 新着情報一覧 > お知らせ > QRコード決済「PayPay」の取り扱い拡大について 2022年9月30日

今般、QRコード決済「PayPay」での支払いが可能な路線を下記の通り拡大いたしますのでご利用願います。

◆運用開始日・・・令和4年10月1日（土）

<<<<<<<<利用可能路線>>>>>>>>

【本荘営業所管内路線】

- ①市内線 東通り（組合病院～イオン～振興局～本荘駅前）
- ②市内線 西通り（振興局～イオン～組合病院～本荘駅前）
- ③本荘高校線（本荘営業所～本荘駅前～本荘高校）12月1日～運行
- ④県立大学前（本荘営業所～県立大学入口～県立大学前）
- ⑤松ヶ崎線（本荘営業所～組合病院～羽後鬼田駅）
- ⑥東由利線（本荘営業所～組合病院～道の駅黄桜の里）
- ⑦赤由線（本荘営業所～組合病院～二又）
- ⑧岩谷線（本荘営業所～組合病院～道の駅おおうち）
- ⑨本荘湯原線（本荘営業所～工業団地～衆生駒前）
- ⑩本荘橋手線（本荘営業所～道の駅黄桜の里～橋手バスターミナル）
- ⑪本荘秋田線（本荘営業所～下浜駅前～県立体育館前）
- ⑫福祉工リア前（本荘営業所～本荘駅前～福祉工リア前）
- ⑬本荘伏見線（本荘営業所～矢島駅前～鳥海菜らんど）
- ⑭小砂川線（桑沢駅前～三崎公園前）
- ⑮仁賀保高校前（桑沢駅前～仁賀保高校～金浦駅前）
- ⑯由利本荘市循環バス 正通り（本荘駅前～鶴舞温泉～東梵天～本荘駅前）
- ⑰由利本荘市循環バス 逆通り（本荘駅前～東梵天～鶴舞温泉～本荘駅前）
- ⑱子吉線（本荘駅前～子吉小入口～宮ノ下、玉ノ池、屋敷上）

PayPayの登録や使い方については、こちらのページから

スマホ決済サービス PayPay 使えます。



公共交通力バー率 算出表

資料1-2

地域名	総メッシュ数	地域ごとの「交通空白地域のメッシュ数」 および 「公共交通力バー率」														増減内容		
		計画策定期		H28年度		H29年度		H30年度		R元年度		R2年度		R3年度				
		空白地数	カバー率	空白地数	カバー率	空白地数	カバー率	空白地数	カバー率	空白地数	カバー率	空白地数	カバー率	空白地数	カバー率			
本荘	292	89	69.5	76	74.0	76	74.0	76	74.0	76	74.0	75	74.3	53	81.8	53	81.8	
矢島	97	43	55.7	43	55.7	43	55.7	43	55.7	43	55.7	43	55.7	43	55.7			
岩城	97	6	93.8	5	94.8	5	94.8	5	94.8	5	94.8	5	94.8	5	94.8		H27:道川北線開設(△1)	
由利	101	33	67.3	33	67.3	22	78.2	22	78.2	22	78.2	21	79.2	21	79.2	21	H29:子吉線 鮎川(西沢方面)延伸(△11) R2:小菅野ボランティア輸送(△1)	
大内	216	54	75.0	52	75.9	52	75.9	52	75.9	45	79.2	45	79.2	45	79.2	45	H28:羽広軽井沢線 代内(△1)、軽井沢生活改善C~羽広間(△1)開設 R1:羽広軽井沢線 平岫(△2)、及位(△2)、葛岡西里(△3)開設	
東由利	141	82	41.8	40	71.6	40	71.6	40	71.6	40	71.6	40	71.6	40	71.6	40	H28:八塩線、法内線、大吹川線 開設(△42)	
西目	53	9	83.0	9	83.0	9	83.0	9	83.0	9	83.0	9	83.0	9	83.0	9		
鳥海	222	69	68.9	62	72.1	62	72.1	62	72.1	62	72.1	62	72.1	62	72.1	62	H27:中直根線(岡田代・打越デマンド:△2)、間木ノ平~長畠(△3)開設により H28:上椿デマンド開設(△2)	
全 域	1167	367	68.6	307	73.7	296	74.6	296	74.6	289	75.2	287	75.4	265	77.3	265	77.3	

※1 メッシュの一つあたりの大きさは500メートル(四方)

※2 バス停から半径300メートル、鉄道駅から半径800メートルに入らない箇所(居住地)を由利本荘市では「交通空白地域」として設定

※3 地域をまたぐメッシュがあるため、地域別の数字の積み上げと全域分の数字は一致しない

前年度比カバー率が上昇した地域

＜町内会や老人クラブ等との「対話会」＞

資料2-1

日付	地域	区分	相手	参加者数
R04. 06. 02	本荘	乗り〔逢い〕交通	石脇新山乗合タクシー利用者会	7
R04. 07. 26	本荘	乗り〔逢い〕交通	石脇新山乗合タクシー利用者会	7
R04. 08. 01	本荘	町内会	赤はげ、末広集落	15
R04. 09. 28	本荘	乗り〔逢い〕交通	石脇新山乗合タクシー利用者会	7
R04. 10. 04	本荘	乗り〔逢い〕交通	石沢地域交通	4
R05. 01. 17	本荘	乗り〔逢い〕交通	石脇新山乗合タクシー利用者会	9

計6回（町内会1件、乗り「逢い」交通実施団体5件）

〈取り組み状況〉

R4.8. 15号の市広報に開催依頼文を掲載するなど、開催を呼びかけた。

〈実績〉

上記6件の開催となっている。

＜主なご意見の内容＞

- 路線バスは乗り降りが大変で、乗りたくても乗れない。
 - コミュニティバス・路線バスの自地域導入を検討して欲しい。
 - タクシーは高くて乗れない。
 - 免許返納しているがバスは利用していない。身内の送迎があるので、困っていない。



近年、高齢化の進展や免許返納の浸透によって「生活の足」に関して不安に思う方が多くなっています。しかし公共交通機関の利用者は減少の一途をたどり、非常に難しくなっています。

市では、こうした公共交通機関の現状やその必要性をお伝えしながら、市民の皆さまのご意見をお伺いするため対話会を開催したいと考えています。

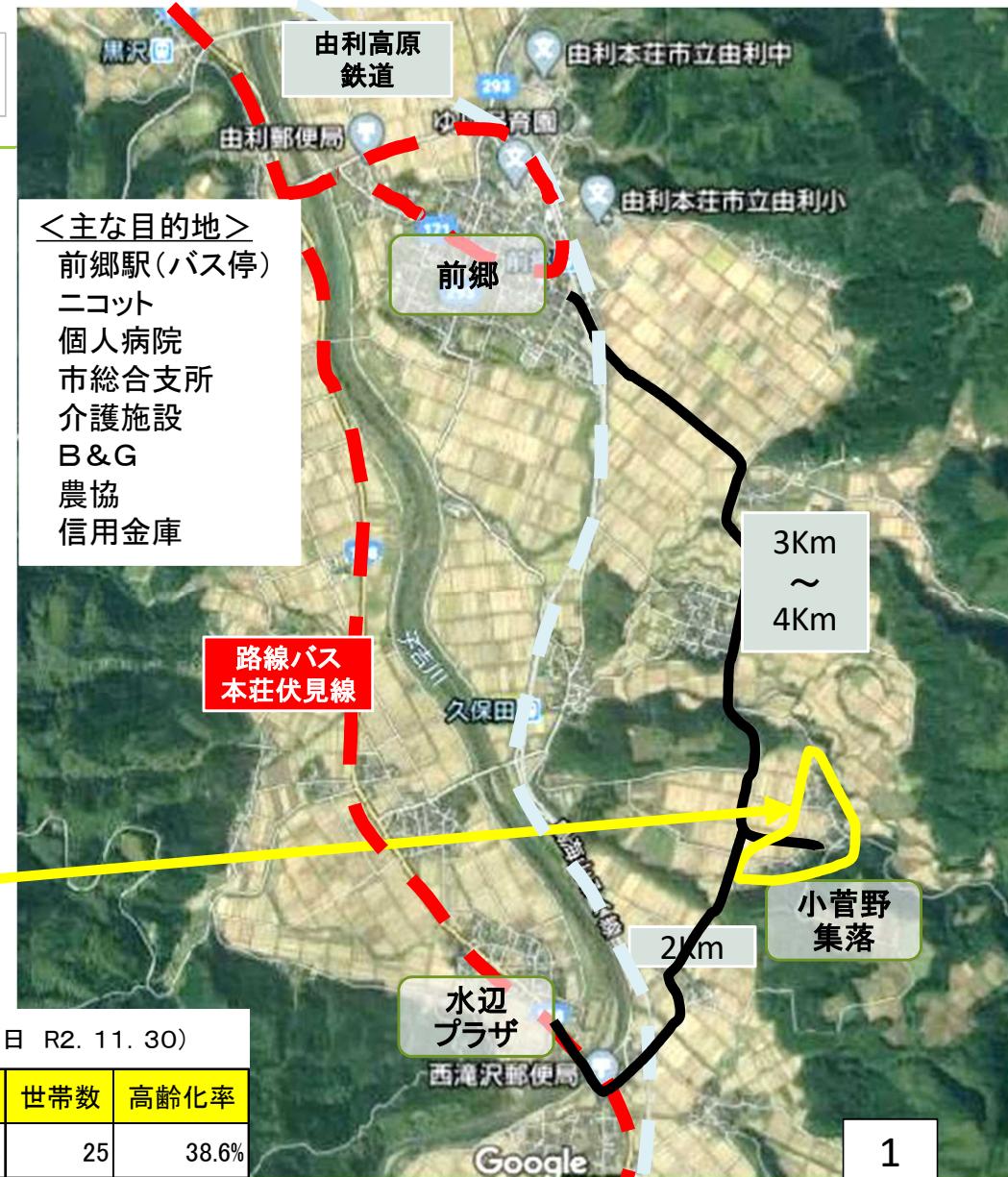
町内会や老人クラブ、各種団体、個人的な集まりなど対象は限定しません。対話会を開催する時間帯や曜日についても、ご要望に応じて対応

ます。お気軽にご連絡いただき、ぜひこの機会に自家用車以外での移動手段について一緒に考えてみましょう!

問い合わせ先
地域づくり培
公共交通班



■ 小菅野集落 互助による輸送



■ 運営内容

【運行開始】令和2年4月 ※本格運行に移行済み

【運営】「小菅野集落の安全と生活を守る会」を設立
役員は会長、副会長、事務局、ドライバー
利用者は集落全員が可能

【運行】随時運行としドライバーが対応可能なら運行する
※火曜日／金曜日の週2回でスタートしたが変更した

【運賃】1乗車100円(前郷)・50円(水辺プラザ)

【利用状況(R3年度)】稼働：60日／93回 乗車：131名

【車両】市のリース車両(シエンタ)を無償貸与



小菅野サロン

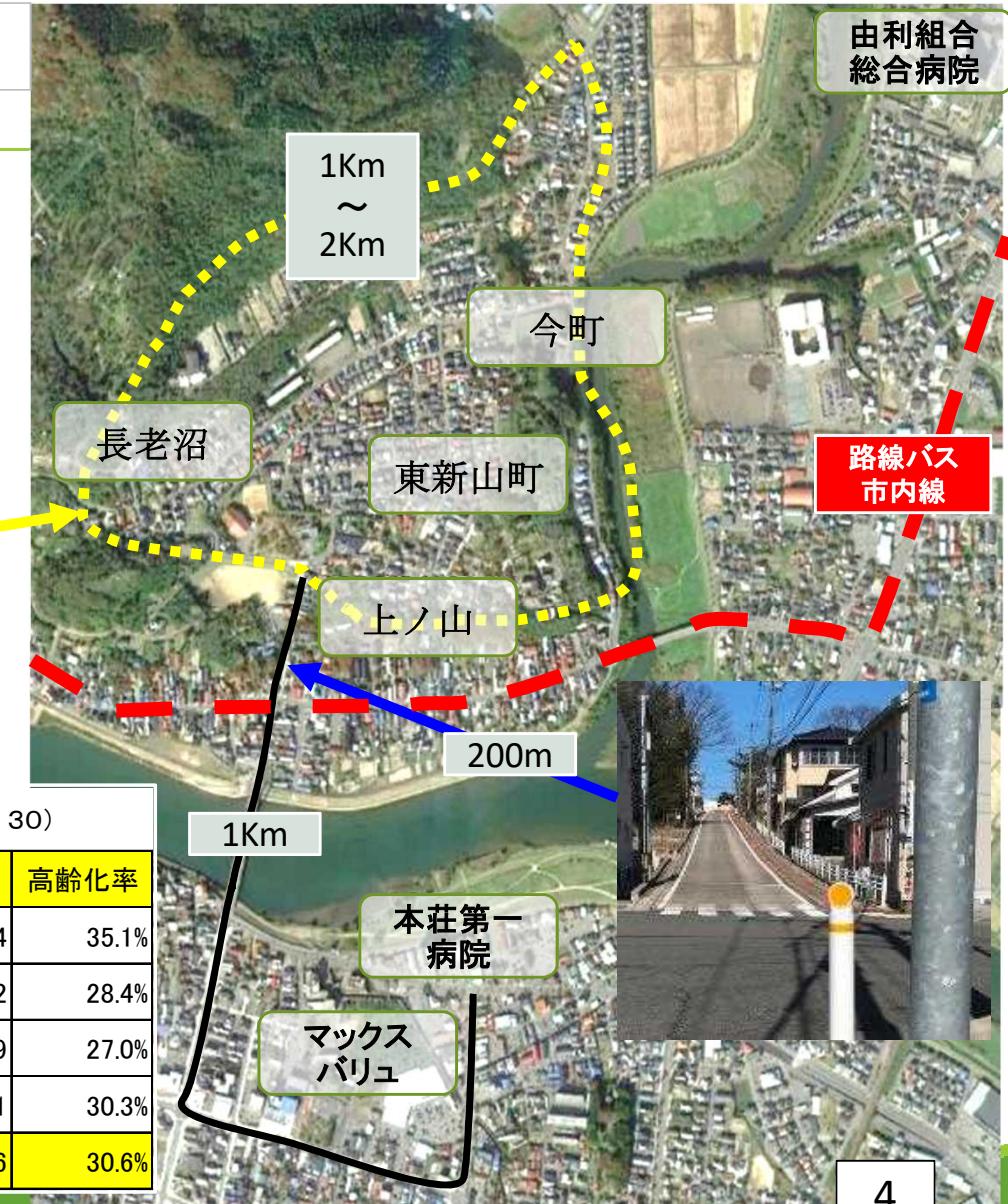
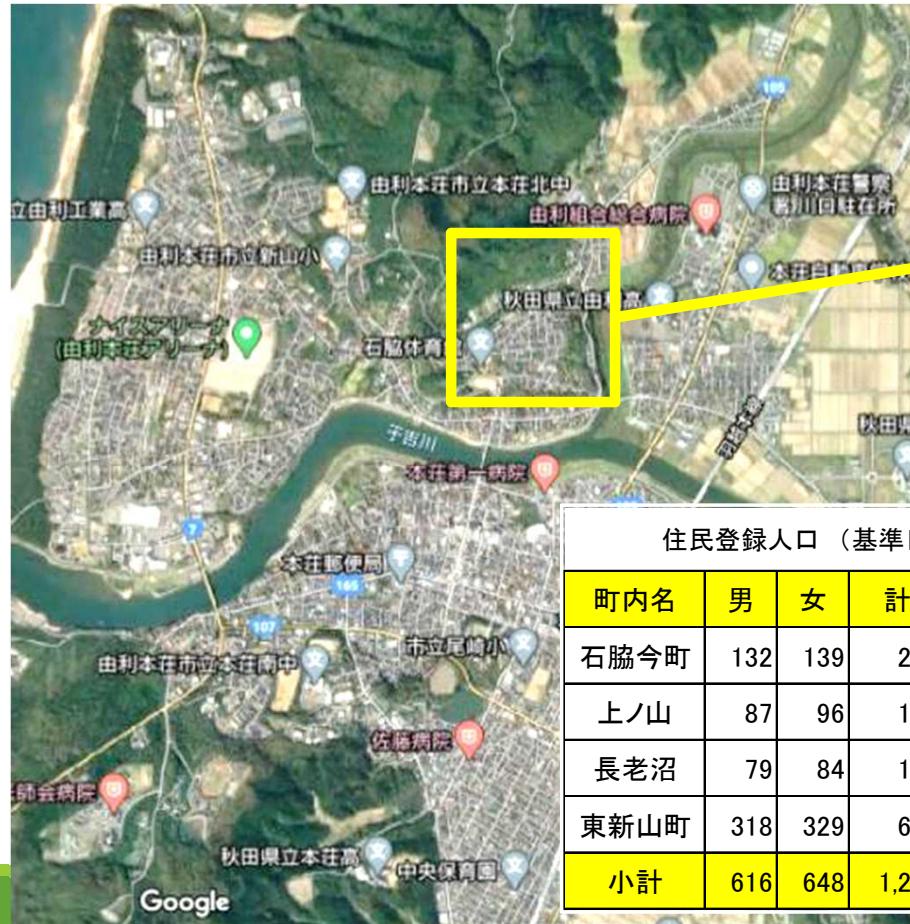


- ✓ 不定期ではあるが「小菅野サロン」を開催している(月に1回くらい)
- ✓ 秋田県立大学によるICTを活用するための研究の一環で予約等のアプリが導入されている
- ✓ 前郷地内にあったAコープの閉店に伴い代替的に運行されている移動販売車に合わせてサロンを開催している

<取り組み事例>

資料2-3

■ 石脇新山乗合タクシー



■ 運営内容

【運行開始】令和3年1月 ※本格運行に移行済み

【運営】本事業を利用したいという方による利用者会を設立
「石脇新山乗合タクシー利用者会」
現在の会員は16名（男8名、女8名）

【運行】予約制で火曜日／木曜日の週2回 ※祝日も運行可能
マックスバリュ特売日の20日、30日も運行

【運賃】片道700円（乗合になることで、半額割引きを適用）
※ 今町付近からマックスバリュまでは通常800円程度

【利用状況(R3年度)】稼働率：稼働可能回数484回の内80回（16.5%）
乗車率：1.1人（93人／80回）※目標は乗車率2人

【車両】委託先のタクシー車両で運行

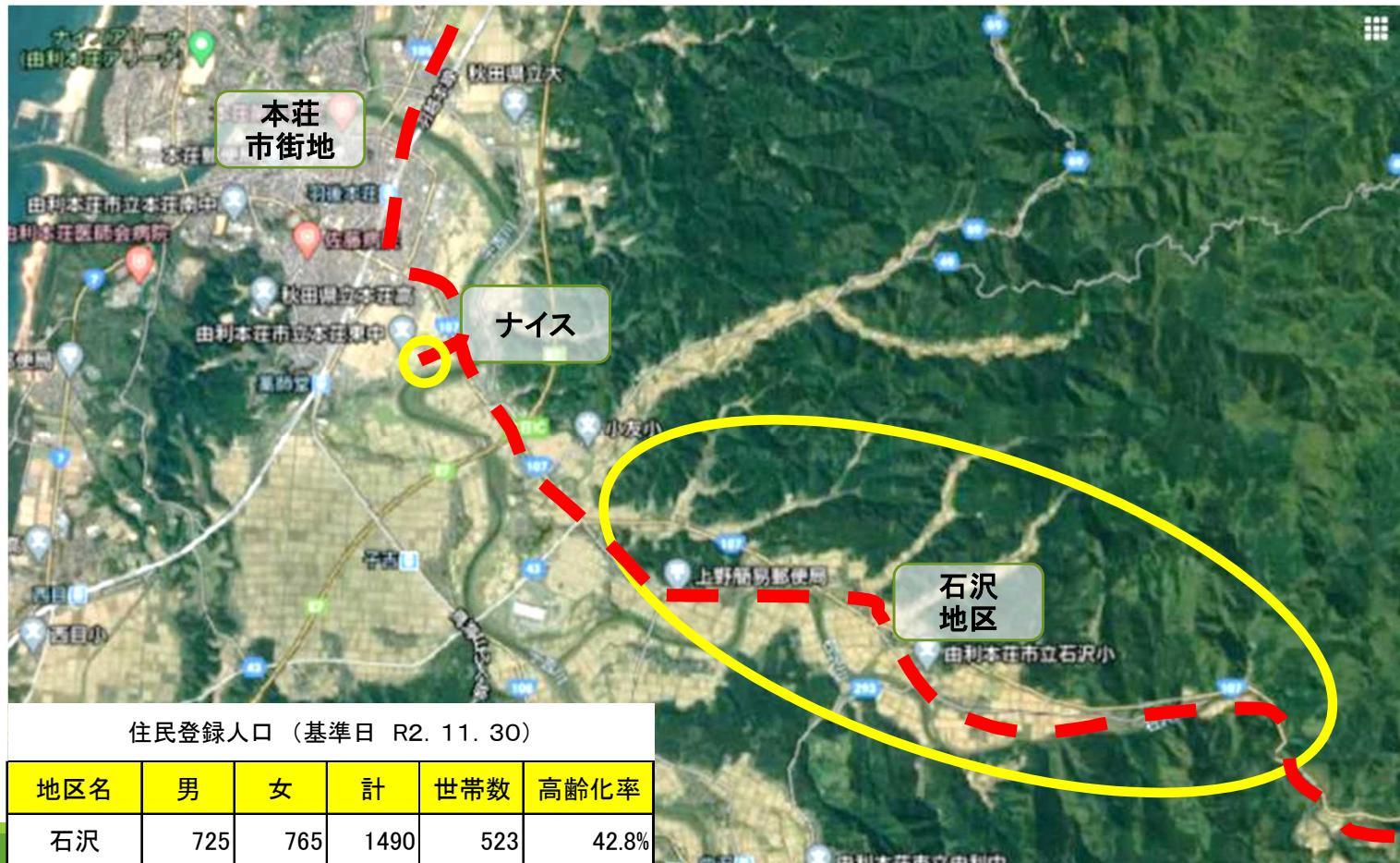
石脇新山乗合タクシー



- ✓ 県立大学で開発した乗合予約アプリを導入
- ✓ 会員が大幅に脱退したことから、利用者会にて運行内容、料金設定を見直した
- ✓ 今後は新規会員の募集に注力する

<取り組み事例>

■ 石沢地域交通 (互助による輸送・路線バス・乗合タクシーの連携)



- ◆石沢地区(18町内)をカバーするボランティア輸送を運行し、自宅↔石沢公民館を運行

- ◆本荘市街地・ナイスに行く時は公民館から路線バスを活用

- ◆ナイスから公民館への帰りは乗合タクシーを運行

- ◆R3.6.1運行開始



R5年度制度変更予定

- ◆自宅↔石沢地区内の移動を自由に（行き先がバス停の場合は自宅最寄りのバス停）

- ◆R5.4.1運行改正予定

■ 運営内容

【運行開始】令和3年6月 ※本格運行に移行済み

【運営】石沢地域振興会（ドライバー登録は8名）

【運行】予約制で火～金曜日の週4回 ※祝日は運休

- ・ボランティア輸送で自宅から石沢公民館間を送迎
(R5年度改正で、地域内の移動を自由に)
- ・公民館からナイスまでは路線バス
- ・ナイスから公民館までは乗合タクシー

【運賃】ボランティア輸送：片道50円
乗合タクシー：650円(小型車両)／450円(ジャンボ)

【利用状況(R3年度)】ボランティア輸送 → 運行回数5回
乗合タクシー → 運行回数2回

【車両】ボランティア輸送：市のリース車両
乗合タクシー：委託先のタクシー車両で運行

石沢地域交通

- ✓「交通クリニック」を開催し、公共交通の有識者を招いて現地調査を元にアドバイスを伺った

✓クリニックの成果として、運行範囲の拡大と新規愛称での運行をお知らせするチラシを作成、配布予定



<地域ごとのバスラッピング導入>

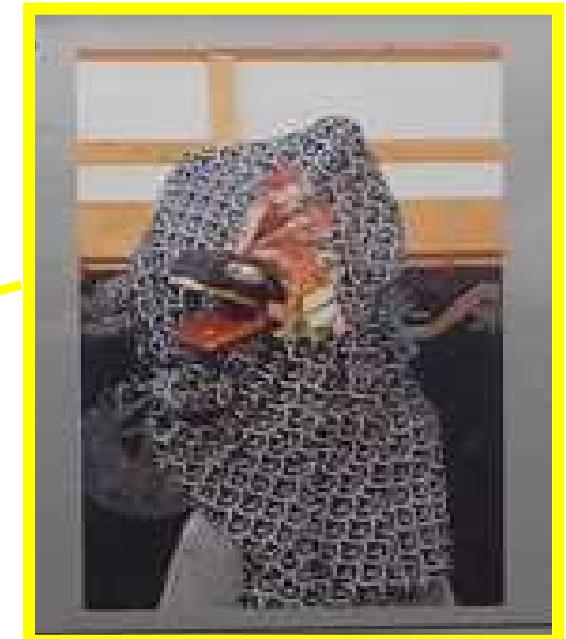
資料2-4

<取り組み状況>

地域を運行する市コミュニティバスの車両に、地域特有のラッピングを施すことにより"自分たちのバス"である意識を醸成し、"守り育てる"ための「ちょい乗り」に繋げていく

<実績>

R4は大内地域「羽広-軽井沢線」、鳥海地域「皿川線」



<高齢化や増加する運転免許自主返納者への対応>

由利本荘市 高齢者「おでかけ」促進事業

由利本荘市民
70歳以上の方
または
運転免許を
自主返納した方
(年齢制限なし)

乗り放題

羽後交通の路線バスが
駒ヶ岳線・八幡平線・高速バスを除く

購入手続き窓口

- 羽後交通本荘営業所 ⇒ 即日発券できます
- 羽後信用金庫 本店 ⇒ 購入申請ができます。後日、
羽後交通から券が送付されます。
石原・川口・曲輪・鳥海・東由利・宮城、
営業時間は11:30～12:30の間、
受付してあります。
- 購入時は保証証をお持ちください

羽後交通の
「ゴールドフリー定期券」を
半額で販売します!

割引開始 令和3年 7月1日

1ヶ月	10,000円	⇒ 5,000円
3ヶ月	21,000円	⇒ 10,500円
6ヶ月	36,000円	⇒ 18,000円

(全て税込価格です)

積極的に
路線バスを活用して
おでかけ
しまじょう

通院 趣味 お買い物

由利本荘市では、地域内のコミュニティバスと路線バスとの接続を強化しております!
接続時間入りの時刻表は担当課までご連絡いただければお渡しできます。

本荘地域／地域振興課 (その他の地域は各総合支所市民サービス課)
TEL (0184) 24-6378

■ 大内 TEL (0184) 65-2211
■ 矢島 TEL (0184) 55-4951 ■ 東由利 TEL (0184) 69-2110
■ 岩城 TEL (0184) 73-2011 ■ 西目 TEL (0184) 33-4610
■ 由利 TEL (0184) 53-2112 ■ 鳥海 TEL (0184) 57-2201

この事業は、(公財)山形県公共交通基金による
地域活性化支援事業の一環として実施されています。
資金を充てて行なわれています。

車の運転に不安を感じたら・・・

運転免許を自主返納しませんか?

由利本荘市では、65歳以上の方が運転免許を
自主返納した場合に次の支援を行っています。

【支援内容】 市コミュニティバスの利用料金を半額補助

市コミュニティバスに乗車の際ご提示いただくと利用料金が
半額になる「半額利用者証」を交付します。

【対象者】

- 由利本荘市の住民基本台帳に登載されている満65歳以上の方で
運転免許を自主返納し、下記の必要書類をお持ちの方
- 由利本荘市の住民基本台帳の登載から外れたら失効となります

【申請手続】 次の書類をご持参の上、市生活環境課または各総合支所市民サービス課で
交付申請の手続きをしてください。

一必要書類

- ① 運転経歴証明書
- ② 運転免許の取消通知書と健康保険証等の年齢が確認できるもの（両方）
上記①か②のどちらかで結構ですのでご持参ください。

くお問い合わせ 由利本荘市 生活環境課
TEL 0184-24-6253

運転免許返納
届け出の窓口または
運転免許センター → **市役所窓口に申請**
生活環境課または
各総合支所市民サービス課

そのほかに受けられる優遇サービス

他にも65歳以上の方が「運転経歴証明書」を提示することで受けられるサービスがあります。
詳しくは裏面をご覧いただき、各機関にお問い合わせください。

「運転経歴証明書」とは、過去の運転経験を証明するものです。
有効期限内に運転免許を返納し、その日から5年以内であれば交付できます。
交付を受ける際は、警察署や免許センターなどの窓口に申請する必要があります。

◇ 秋田県内のタクシーの乗車運賃割引き ◇ 県内路線バス（3社）の回数券割引き
◇ 由利本荘市高齢者「おでかけ」促進事業による羽後交通ゴールドフリー定期券の割引き
など・・・（詳しくは裏面を）

秋田県内のタクシーの乗車運賃割引き

制度名：運転免許返納高齢者タクシー割引制度
対象の業者：秋田県内の全タクシー（法人・個人）
割引内容：乗車運賃を1割引
対象者：65歳以上の方で「運転経歴証明書」を持っている方
利用方法：タクシー利用時に「運転経歴証明書」を提示

公共交通機関の割引きなど

県内のバス会社3社（中央交通、羽後交通、秋北バス）では、
運転経歴証明書を提示すると1,200円分の回数券を1,000円で購入
できる『とくとく回数券』の販売をしております。

由利高原鉄道では駅窓口が運賃支払時に運転経歴証明書または
ふれあい塾受講証を提示していただくと運賃が半額になります。

運転免許自主返納高齢者支援サービス

65歳以上の高齢者が、このチラシが貼ってあるお店で
「運転経歴証明書」を提示すると、お店ごとに料金割引等の
サービスが受けられます！
<秋田県ホームページ>
<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/11142>

由利本荘市 高齢者「おでかけ」促進事業

由利本荘市では高齢者の移動手段の確保と
公共交通機関の利用促進を目的とした
上記事業を実施しております。

運転免許を自主返納した方（年齢不問）と
70歳以上の方が購入できる
羽後交通のゴールドフリー定期券を
半額で販売しております。

購入は、羽後交通本荘営業所の窓口か、
市内各地域にある羽後信用金庫で手続きが
できます。




<取り組み状況>

R3.7.1より羽後交通ゴールドフリー定期券を半額で販売する補助事業（高齢者お出かけ促進事業）を開始し、R 4も継続した。
各地域にある羽後信用金庫でも購入が可能となっている。また、免許返納により得られる特典をまとめたチラシを作成し、市HPに掲載しているほか、総合支所を含む市役所窓口に設置している。

<実績>

R4.4月～12月で87件の購入実績がある。羽後交通本荘営業所：79件／羽後信金：8件

<通学定期券購入費助成の検討>

資料4-1

おばこ
YURI KOGANE RAILWAY

レール上の教室

教科書を広げたり
景色を眺めたり
友と語り合ったり
「おばこ号」は
いつでもあなたを
応援する教室です

そのほかにも
学生に優しい環境づくり

- 車両の増結運行で余裕ある車内環境
補習日程に合わせた増結運行
- 矢島駅、前郷駅での学習環境づくり
机・椅子の増設など、お迎えまでの快適な空間を
過ごせるように整備

Point 1

今年も
ゆりてつは
覚悟を決めました

定期券
¥特別割引
未来ある高校生様

令和4年4月

1ヶ月定期券 3ヶ月定期券 6ヶ月定期券

高校生の通学定期券を
大幅値下げします!

値下げ例 《矢島 ⇄ 羽後本荘》
18,230円 ⇒ 9,500円
(ほぼ半値)
《西蒲沢 ⇄ 羽後本荘》
15,400円 ⇒ 8,100円
《前郷 ⇄ 羽後本荘》
11,950円 ⇒ 6,500円
大学生、各種学校生も対象になります。

Point 2

定期券提示で特別割引
矢島駅待合室「駅カフェおばこ」
で定期券を見せるごドリンクなど
50円引き

Point 3

50円引き

由利高原鉄道株式会社

由利高原鉄道株式会社 秋田県由利本荘市矢島町七日町字羽坂 21-2 Tel : 0184-56-2736 Fax : 0184-56-2850 Mail : info@obako5.com https://www.obako5.com

通学定期収入の状況

(R4上期とR3上期の比較)

R4 : 6,949千円

R3 : 6,082千円

=867千円の増

少子化や家族送迎によりH16以降通学定期収入が対前年で増加したことはなかったがR3より増加に転じている

<取り組み状況>

R3で好評であったためR4も引き続き割引きを実施。駅定期購入者にはカフェおばこの特別割引を行ったほか、列車内及び駅舎内の学習環境を整えることで、駅舎の利活用も促進した。

<実績>

R4.4の新学期開始時点での購入状況 ※<>内は前年度の購入率

矢島地域：1年生 32名中 14名 (44%) <58%>	2年生 24名中 14名 (58%) <35%>	3年生 32名中 9名 (28%) <44%>
由利地域：1年生 34名中 21名 (62%) <48%>	2年生 31名中 15名 (48%) <41%>	3年生 39名中 11名 (28%) <12%>
鳥海地域：1年生 28名中 11名 (39%) <51%>	2年生 24名中 7名 (29%) <47%>	3年生 23名中 7名 (30%) <25%>
全体合計：1年生 94名中 46名 (49%) <51%>	2年生 79名中 36名 (46%) <40%>	3年生 94名中 27名 (29%) <27%>
全学年 267名中 109名 (41%) <40%>		

地域別で見ると、由利高原鉄道の駅が多い由利地域で新1年生の購入率が大幅に上がっており、また全学年において由利地域は高い水準にあることから、由利地域は由利高原鉄道が利用しやすい環境にあることが見て取れる。

高校別では本荘高校が14名、由利工業高校が10名増えている一方、由利高校が8名減っているが進学先と卒業生の人数に影響される。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)(案)

令和 5年 1月 31日

協議会名：由利本荘市地域公共交通活性化再生協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
羽後交通株式会社	本荘地域循環バス (正廻り) 本荘地域循環バス (逆回り)	<p>【前回の評価結果】 ・「対話会」の実施により当事者意識が醸成されてきていることを評価します。引き続き当事者意識醸成につながる取組みを行うことを期待します。</p> <p>【評価結果の反映状況】 (循環バスに限らないものの)当事者意識醸成のひとつとして、県の公共交通乗って応援キャンペーンと連携してバスの積極的な利用をHPやSNSでPRした。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 【目標値】20,000人 【実績値】23,107人 【達成率】115.5% 新型コロナの影響が徐々に緩和され、市民全体でお出かけへの意識醸成が出来た結果、利用者増に転化した。	事業者の企業努力により、キャッシュレス決済(paypay)を導入し、利便性の向上を図った。定期券や一日乗り放題など、利用者にお得な制度創設を引き続き検討していく。
羽後交通株式会社	子吉線(系統1) 子吉線(系統2) 子吉線(系統3)	<p>【前回の評価結果】 ・「対話会」の実施により当事者意識が醸成されてきていることを評価します。引き続き当事者意識醸成につながる取組みを行うことを期待します。</p> <p>【評価結果の反映状況】 利用が伸び悩む沿線地域に出向き、対話会を4回開催し、当事者意識の醸成と月1回程度の定期的な利用を呼びかけた。その成果として、利用促進の一環で、地域住民皆でバスに乗り温泉へ出かけるイベントを実施した。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 【目標値】1,400人 【実績値】1,977人 【達成率】141.2% 沿線町内において「対話会」の開催や月に1度の利用を促すことで、当事者意識が醸成されてきている。その一因として、お出かけイベント等の団体利用に満足感が高まっていることが出来た。	引き続き対話会などを通じて、地域の声を取り入れ、改善していく。一方で、利用者の伸び悩みがある便については、減便やダイヤ改正を検討していく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
光タクシー株式会社	道川北線	<p>【前回の評価結果】 ・「対話会」の実施により当事者意識が醸成されてきていることを評価します。引き続き当事者意識醸成につながる取組みを行うことを期待します。</p> <p>【評価結果の反映状況】 年1回のコミュニティバス運営委員会の開催で、地域の声を聞き取り路線の維持改善に繋げている。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 【目標値】200人 【実績値】299人 【達成率】149.5% 通院目的など、定期的な利用者を確保できている。	運営委員会で利用者の声を定期的に聞き取りながら、路線の維持・利用促進に繋げていく。
東交通株式会社	八塩線	<p>【前回の評価結果】 ・「対話会」の実施により当事者意識が醸成されてきていることを評価します。引き続き当事者意識醸成につながる取組みを行うことを期待します。</p> <p>【評価結果の反映状況】 コミュニティバス利用促進協議会を開催し、利用者の声の聞き取りアンケートを行った。また、沿線地区にコミュニティバスPRチラシを全戸配布した。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 【目標値】1,700人 【実績値】2,349人 【達成率】138.1% 競合する交通機関(鉄道など)が無いため、定期的な利用者を確保出来ている。また、チラシを各家庭に配布するなど、積極的なPRが利用促進に繋がっている。	引き続きチラシ配布など、目に見える形での積極的なPRを続ける。利用促進協議会で利用者の声を吸い上げ、コミュニティバスの利用促進に繋げる。
東交通株式会社	法内線	<p>【前回の評価結果】 ・C評価の系統は幹線系統との接続強化と合わせた利用促進策を実施することを期待します。</p> <p>【評価結果の反映状況】 コミュニティバス利用促進協議会を開催し、利用者の声の聞き取りアンケートを行った。また、沿線地区にコミュニティバスPRチラシを全戸配布するなど、利用促進策を実施した。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 【目標値】1,000人 【実績値】870人 【達成率】87.0% チラシでのPR等を通じて利用促進を行い、昨年度よりも乗車人数の増加が見られた。	引き続きチラシ配布など、目に見える形での積極的なPRを続ける。利用促進協議会で利用者の声を吸い上げ、コミュニティバスの利用促進に繋げる。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
由利本荘市	西目線	<p>【前回の評価結果】 ・C評価の系統は幹線系統との接続強化と合わせた利用促進策を実施することを期待します。</p> <p>【評価結果の反映状況】 新型コロナの影響と直近の利用実態を踏まえ、目標値を下方修正した。ダイヤ改正、減便など、路線の適正化に向けての検討と、幹線系統の象潟線等への接続強化を継続検討している。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 【目標値】2,000人 【実績値】2,302人 【達成率】115.1% 新型コロナの影響が徐々に緩和され、市民全体でお出かけへの意識醸成が出来た結果、利用者増に転化した。	利用実績は改善したもの、目立った利用促進策に着手出来ていないため、対話会やチラシ配布など、出来るところから利用促進に繋げていく。
由利本荘市	中田代線	<p>【前回の評価結果】 ・「対話会」の実施により当事者意識が醸成されできていることを評価します。引き続き当事者意識醸成につながる取組みを行うことを期待します。</p> <p>【評価結果の反映状況】 新型コロナの影響と直近の利用実態を踏まえ、目標値を下方修正した。起点となる道の駅にデジタルサイネージを設置し、次便の目的地や時刻表を確認出来るようにして利用促進を進めた。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 【目標値】8,000人 【実績値】7,489人 【達成率】93.6% かつては学生の利用もある便であった為、少子化の影響で利用が減少すると、相関して全体の利用者数も減少している。その結果、目標を下回った。	コミュニティバスへのデジタルサイネージ設置については、本市では初の試みとして特筆するべき点である。その他にも、対話会やチラシ配布など、出来るところから利用促進に繋げていく。
由利本荘市	羽広-軽井沢線(系統3) 羽広-軽井沢線(系統4) 羽広-軽井沢線(系統6)	<p>【前回の評価結果】 ・C評価の系統は幹線系統との接続強化と合わせた利用促進策を実施することを期待します。</p> <p>【評価結果の反映状況】 新型コロナの影響と直近の利用実態を踏まえ、目標値を下方修正した。起点となる道の駅にデジタルサイネージを設置し、次便の目的地や時刻表を確認出来るようにして利用促進を進めた。</p>	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 【目標値】1,500人 【実績値】1,132人 【達成率】75.4% かつては学生の利用もある便であった為、少子化の影響で利用が減少すると、相関して全体の利用者数も減少している。その結果、目標を下回った。	コミュニティバスへのデジタルサイネージ設置については、本市では初の試みとして特筆するべき点である。その他にも、対話会やチラシ配布など、出来るところから利用促進に繋げていく。

※枠の大きさの変更は可能です。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 5年 1月 31日

協議会名:	由利本荘市地域公共交通活性化再生協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>由利本荘市は、秋田県の南西部に位置し、南に鳥海山、東に出羽丘陵を望み、中央を一級河川子吉川が貫流して日本海にそそぐ、山・川・海と自然に恵まれた地域で、面積は1,209.60km²と秋田県の面積の10.4%を占め、県内一である。</p> <p>これまで、路線バスの不採算路線を市が補完し、代替運行することで路線の確保に努めてきたが、人口減少や過疎化、高齢化が進み、交通空白地域から公共交通導入についての要望が増加している。今後はボランティア輸送や、乗合タクシーのエリア拡大など新たな対応・対策が必要となっている。また、路線バス運転手の高齢化や人手不足が進み、交通空白地の増加についても考慮する必要がある。</p> <p>令和2年4月に策定した網形成計画(第二次)で「持続可能な公共交通体系を構築し、安心して「おでかけ」できる環境を創る。」とする基本方針を定めた。</p> <p>福祉施策や都市施策、商工施策などの「まちづくり」と一体となった公共交通の実現が必要であり、事業の持続可能性に配慮しながら、各地域の結節点と結ばれるフィーダー運行路線の導入を図ることで、点在する交通空白地域の解消や潜在的な交通弱者への対応などに向けて取り組む必要がある。</p> <p>また、公共交通の利用者が減少しているなか、積極的に利用促進のPRを行うとともに、モビリティ・マネジメントの考え方方が浸透するよう丁寧な説明を行い、住民とともに取り組んでいく必要がある。デマンド交通やAI配車タクシーなど、新しいテクノロジーの導入についても検討する必要がある。</p>

由利本荘市地域公共交通活性化協議会

平成 27年 10月 1日事業開始

事業名:令和4年度地域内フィーダー系統

生活交通確保維持改善計画

目的・必要性

羽後交通(株)の不採算路線を市が代替運行することで路線の確保に努めてきたが、人口減少や高齢化により交通空白地域から公共交通の導入要望が増加しており、新たな対応・対策が必要である。また、報道に頻繁に上がるよう、ドライバーの高齢化や人手不足も顕著であり、公共交通の維持確保にも多大な影響があり、対策が必要である。

確保・維持する系統の概要

【地域内フィーダー系統】(全13系統)

【羽後交通(株)】
●本荘地域循環バス(2系統)／毎日運行
●子吉線(3系統)／西地区路線(月木)、東地区路線(火金)運行



【光タクシー(株)】●道川北線／火曜・木曜運行

【東交通(株)】●八塩線／月曜～金曜運行 ●法内線／月曜・水曜・金曜運行

【由利本荘市】●西目線／月曜～土曜運行 ●中田代線／毎日運行

●羽広一軽井沢線(3系統)／月曜～土曜運行

【料金】全8路線とも一律200円(未就学児は無料)

事業・実施主体

各地域の検討委員会等で利便性向上と積極的な利用促進を図るための

対話会を行う。(由利本荘市)

便ごとの乗車率データを集積し、ニーズを把握とともに幹線との接続強化を図る。(由利本荘市)

定量的な目標・効果

【目標】年間輸送人員

- ①本荘地域循環バス(正廻り・逆廻り)…20,000人
- ②子吉線(路線全体で)…1,400人 ③道川北線…200人 ④八塩線…1,700人
- ⑤法内線…1,000人 ⑥西目線…2,000人 ⑦中田代線…8,000人
- ⑧羽広一軽井沢線(路線全体で)…1,500人

【効果】

- ①双方向運行により待ち時間と乗り継ぎの不便さが解消され利用者の掘り起しができる。
- ②ニーズの高い施設に直接行くことができる。
- ③直接行くことができなかったニーズの高い施設に行くことができる。
- ④路線バス廃止に伴う補完路線であり「生活の足」の確保が図られる。
- ⑤通院や買い物の移動手段として運行され、交通空白地域解消が図られる。
- ⑥住民ニーズに対応した経路設定をしたことで、新たな利用者の掘り起しができる。
- ⑦路線バス廃止に伴う補完路線であり「生活の足」の確保が図られる。
- ⑧2路線を再編し、結節点である「道の駅」まで直接乗り入れ可能となり利便性が向上する。

基礎データ

合併状況:平成17年に1市7町が合併

人口:72,753人 (令和4年12月31日現在)

面積:1,209.60平方キロメートル

高齢化率: 38.5%

協議会開催数:協議会開催数:協議会3回(内、書面協議2回)

前回の評価結果

【達成状況(結果)】(特に改善が必要な2系統)西目線2,000人(達成率76.9%)、羽広-軽井沢線1,230人(3系統/達成率61.5%)

【評価】

- ・路線バスや鉄道との接続を強化するとともに、利用パターンの提示(提案)を推進する
- ・さらなる利用者の獲得を目指し無料利用チラシなどのような事業も検討したい。
- ・買い物「サロン」や対話会を開催し、新規の利用者開拓を目指す。
- ・当事者意識醸成につながる取組を実施する。
- ・幹線系統との接続強化と合わせた利用促進策を実施する。

評価項目

実施状況、目標・効果の達成状況

【実施状況等】

- ・市内の町内会・老人クラブに呼びかけ、公共交通の利用に関する「対話会」を行った。
町内会:1件／延べ参加者15名 乗合交通事業実施団体:5件／延べ参加者34名
- ・デジタルサイネージの設置や、沿線へのチラシ全戸配布、一部路線へのキャッシュレス決済導入を実施した。

【実績】

※乗車人数(達成率)

本荘地域循環バス 115%、子吉線 141%、道川北線 149%、八塩線 138%、

法内線 87%、西目線 115%、中田代線 93%、羽広-軽井沢線 75%

内訳 A=5件 B=2件 C=1件

※評価の判定基準

- ・A ⇒ 目標達成100%以上
- ・B ⇒ 目標達成80%以上100%未満
- ・C ⇒ 目標達成80%未満、又は、補助対象外(1運行当たり2人未満、運行割合30%未満)

事業の今後の改善点

- 利便性の向上に向け、乗り放題や半額チラシなど、利用機会創出の為の施策を検討する。
- 引き続き、利用委員会や対話会など利用者の声を取り入れ、ルートやダイヤ改正などの見直しを図り、ニーズに合った路線に改良する。
- コミバスの利用チラシ配布やお出かけイベントを実施し、利用促進を図る。